

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6 年 11 月 25 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100116		
法人名	社会福祉法人うすい会広島光明学園		
事業所名	グループホーム光明牛田新町		
所在地	広島市東区牛田新町3-20-15 (電話) 082-222-3223		
自己評価作成日	令和6年7月29日	評価結果市町受理日	令和7年1月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100116-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年11月20日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>①隣接する保育園と合同で行事を行い、子供と高齢者のふれあいに力を入れている ②身体拘束について委員会で話し合いを行い、身体拘束や不適切なケアとならないように力を入れている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所介護理念を朝礼で唱和を行い、意識して毎日の業務に携わっている。コロナ禍で地域との関りが中止となり地域との交流が困難ではあったが、徐々に地域行事の盆踊り、秋祭り、公民館祭りに参加したり、近隣のこども保育園児が敬老会に来訪がある等交流を再開している。利用者の行動を抑制する事のないよう、身体拘束適正化委員会で話し合い、散歩やスーパーへ買い物、利用者ができる事は手伝ってもらい、又、家族の協力で外出等、利用者本位の支援の取り組みを職員と共に行う事で、明るい笑顔を絶やさないよう実践している。健康面は看護師が常駐していて毎日の健康管理や受診の際に同行支援や、緊急時に医療の連携体制を図り、適切な医療が受けられる支援を行っている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を朝礼で唱和し、職員間で共有している。理念に基づき、笑顔で利用者様と関り、家庭的な面で、利用者様のできる家事を一緒に行ったりしている。地域の交流については、行事に参加させていただいたり、散歩に出かけた際にスーパーや郵便局に立ち寄りしている。	事業所介護理念を掲示し朝礼の時唱和を行い、目標、目的を持って業務に携わっている。年1回の職員全体会議に振り返り、明るく笑顔を絶やさぬよう心掛け、毎日の状況を情報共有し実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	感染症の状況を見ながら、散歩や、町内の祭りに参加させていただき、交流を持っていただいている。日常的に外出の支援は行っていない。	散歩や近所のスーパーに買い物、郵便局へ職員と出かけた時等、日常的に挨拶をしている。運営推進会議に出席者の民生委員から地域行事の情報を得て、地域の盆踊りや秋祭り、公民館祭りの催しに参加交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議の際に民生委員、家族を招き、状況を伝えている。身体拘束や虐待についてなどの話を取り上げて、事業所でどのような対応をしているか伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域包括支援センター職員、民生委員、家族を招き、会議を開催し、身体拘束や虐待の状況、不適切なケア等について意見を頂いている。情報を共有しながらサービス向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催している。利用者、利用者家族、民生委員、地域包括支援センター職員、職員の出席で利用者状況、地域交流、ヒヤリハット・事故報告、事例を挙げた身体拘束適正化委員会の検討等情報共有を行い、意見や要望、助言等を得て、運営に活かす取り組みに努めている。	運営推進会議の出席者ならびに協議事項が固定化した開催となっている。日頃から地域住民ならびに関係者との暮らしの繋がりを深め、多方面、多職種の出席で事業所の情報を共有し、会議が意見交換の場となるよう期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	生活課や介護保険課の担当者へサービスについての不明瞭な事について連絡確認を行っている。具体的なサービスの取組みについては伝える事ができていない。	広島市担当課に不明瞭な点等相談をしている。地域包括支援センターとは運営推進会議に参加が得られ、事業所の情報共有をしている。市主催の研修等に職員が参加し協力関係の構築に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束については、研修で基礎を学び、委員会で、事例をあげて、話し合いを行い、ご利用者様に対して拘束行為とならないように努めている。対象となる行為はもちろんだが、グレーゾーンとなりそうな行為を委員会で検討し実践にかすようにしている。	研修や身体拘束適正化委員会で事例を挙げて話し合いを行うとともに、運営推進会議においても、同委員会での事例についても協議している。身体拘束による弊害や不適切ケア等、基本的な知識を習得し、気づきがあれば注意や指導を行う等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修を通じ、高齢者虐待防止法等虐待に関する情報を共有している。又、委員会で事例をあげて、グレーゾーンについて検討し、実践に活かしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるような支援している。	運営推進会議にグループホームの職員も参加し、地域包括支援センターの職員から成年後見制度について学ぶ機会を設けている。実際に制度を利用されている利用者もいる。家族にも一緒に学ぶ機会を設け、もしもの時に活用を検討する事と、合わせて協力をさせていただき事伝えていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約時にご家族にじゅうぶん説明し、都度不明瞭な事について回答し、ご理解、納得、了承していただけるように努めている。契約後等でも不明瞭な事があれば時間を作り、説明を重ねて承していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入所時に要望を確認し、その後は面会時等定期的な声かけをさせて頂き、現状の疑問点や要望等をお聞きするようにしている。	面会や電話等で意向や要望を聴取している。運営推進会議参加の家族からの意見や運営推進会議議事録を送付し、事業所の状況報告や交流・行事実施状況を行い情報の共有をしている。今後は話しやすい雰囲気作りを行い、意見や要望を運営に活かす取り組みを検討している。	

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員が管理者に都度意見を伝えられる環境があり、コロナ禍では、ミーティング等も難しい時期もあったが、折に触れ、管理者が現場で意見や提案の聴き取りを行い、運営に反映させている。</p>	<p>管理者は意見が発信しやすいように配慮し、業務の中で疑問点等職員間で話し合いを行い、事業運営に活かせるよう努めている。職員が毎日の支援の中で食が進まない利用者がゼリーなら食べた事に気づき職員間で話し合い、家族に食事にトロミをつける事の報告を行い、食事が進むようになった経緯がある。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>引き続き、個々のアイデアや工夫等をコミュニケーションの中で抽出し、提案のあった事については積極的にまず実践してみて評価するという事を行っている。途中途中で経過をみながら成功事例が積み重なり、各自の自信につながるように努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>施設内研修を受け、それをレポートし、管理者から個別に話があったり、外部の研修について案内がされており、希望者が自主的に勉強する機会を設けられている。初任者研修や介護福祉士取得に向けた研修の受講ができるよう図られている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>施設内研修をリモートで行い、他事業所間との交流としていた。今後についても、年4回の全体会議と全体施設内研修を計画中である。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>サービス利用前に本人にお会いし、本人、ご家族、関係機関等からお話を聞かせて頂き、不安や要望について把握し、職員全体で本人の安心できる環境作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前見学から始まり、契約時にご家族・本人の置かれている状況等の理解に努め、共感する姿勢を持って関係作りに努めている。又、面会等で質問された際には明るく接するよう心掛け、管理者に内容を報告し、ご家族に不明瞭な点が残らないように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前見学、契約時の中で話しを聞かせて頂き、他のサービス利用も含めた対応に努めている。例えば、訪問歯科、マッサージの利用をして頂いたり、協力医以外の医療への受診、相談等を積極的に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者の状態が厳しく介助に苦慮するような面があったとしても、それぞれの「できること」をみつけ、例えば、洗濯物たたみを職員と共に行ったり、たたみかたを教えてもらったり、床の掃除を一緒に行ったり、利用者に寄り添い交流を図れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	病院受診において、ご家族様に協力をして頂き受診を行っている。寂しさの訴えがあった場合には電話連絡をさせて頂き、協力を得ている。面会も毎日きて頂けるかたにはお願いをするなどし、家族と協力し本人を支えられるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族には友人知人の面会も随時対応できる事を伝え、週に1回程度知人が面会にくる利用者もいる。友人や長く会えていない兄妹への連絡、手紙のやり取りをされる方もいらっしゃる。馴染みの場所については、ご家族様がお連れして下さる事が多い。	新型コロナウイルス感染症が5類に移行となり、面会も少しずつ緩和し、兄弟、親族、友人、知人の面会や家族の協力で外出や自宅近くの集会所に出かけたり、馴染みの美容院や訪問理美容を利用する等、馴染みの人や場との関係が途切れる事のないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共有スペースでは、テーブルを囲むように座っていただき、交流しやすい環境作りに努めている。交流が難しい方には随時職員が関りを持っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所時にグループホームでの生活状況の写真をアルバムにしてお渡ししたり、メモリーとしてお渡ししたり、自宅介護に役立つ資料を作成し、ご家族の不安軽減となるよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃からのコミュニケーションの中から状況の把握を心がけている。自己決定や主張ができない方には家族、担当者、管理者などと相談し、思いがくみ取れるよう「もしご本人だったら」を念頭に置きサービスの提供を心がけている。	日頃の会話やコミュニケーションの中から思いや意向を把握し、記録に残し情報を共有している。表出の難しい場合は日頃の生活の中から本人の思いを汲み取り、まずは試してみる事から取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日頃からのコミュニケーションで把握する事が多いが、事前のサマリーや、アセスメントシートで確認をして関りを持つようにしている。ご家族が面会にこられた際にも本人の事を聞く事もあり、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタルチェックを行い、表情や、声、皮膚状態等を観察し、心身状態や体調の把握に努めている。又、生活リハビリやレクリエーションなどから有する力の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>職員で話しあった事を再度ご家族様に報告し、ご検討頂いている。必要に応じて、医療機関等の関係者と連携しながら現状に即した介護計画の作成に努めている。</p>	<p>日頃の業務の中で利用者、家族の要望を把握し、担当者が課題に沿った目標を反映した介護計画を作成している。毎日実施状況をモニタリングした上で月毎に検証し半年毎に見直しをしている。体調や状況に変化があれば、医療機関の意見や職員の提案を反映した現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の状況を記録にまとめ、注意事項等を申し送りノートに記載し情報の共有に努めている。その中で、プランに反映させていくものについては、担当者や、各関係者、管理者に助言を求め、プランに反映してもらっている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>ご家族が受診が難しい時には職員が付き添いをしたり、利用者、家族が希望されれば訪問マッサージを利用したり、落ち着かれない時には隣接する保育園に遊びにいたり、柔軟に対応できるように努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>隣接する保育園で園児と交流する事で、季節の行事を体験したり、様々な記憶(自分や子供、孫等自分にとっての良い時代)のお話が聞け、気分が改善される事があり、豊かな暮らしや、楽しい生活に繋がるように努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医と協力し、症状に応じて様々な医療機関や精密検査等早期に受診できるように努めている。希望される医療機関への受診も家族同伴で受診できるよう柔軟に対応支援している。</p>	<p>契約時希望のかかりつけ医の確認をしている。希望のかかりつけ医の受診は基本家族対応としているが、場合によっては職員が受診支援をしている。医療協力医の毎週水曜日の訪問診療、希望があれば週1回の訪問歯科の支援をしている。看護師の職員が体調や健康管理を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の利用者の変化の情報共有は職員全体で行い、健康面や栄養面等医療との連携が必要な際は、看護師とも情報共有が行えるようにしている。受診や看護が必要な場合は、管理者から家族に連絡をし、受診の支援に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には、管理者が定期的に病院に連絡し、現在の状況を確認し職員に情報共有できるようにしている。病院の相談員からも連絡が随時入り、受けた職員が情報の共有ができるようにしている。早期退院については、受け入れられる状況を管理者が職員に確認しているので、早期に退院してくる場合もある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約の際に、重要事項の説明として、伝え同意を得ている。又、面会に来られた際には現状をお伝えし、ご家族に事業所として提供できる限界について等を説明しながらご理解頂けるよう取り組んでいる。	契約時「重度化した場合における対応に係る指針」について説明確認をしている。重度化した場合現状を伝え、事業所で出来る事、出来ない事の説明を行い確認をしている。医師から家族に状況を伝え、今後の方針を検討し、関係者と方向性を決め、利用者、家族に寄り添う看取り支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内研修やマニュアルを通じ、緊急時の対応を職員個々で確認している。事故発生時には事故報告書を作成し、職員間で情報の共有を行い、再発防止について話し合いを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	隣接する保育園と共同で、月1回の避難訓練を実施し、発生時に備えられるよう努めている。発生する非常災害の想定をかえ、それに応じた動きができるよう努めている。	月1回隣接の保育園と合同で避難訓練をしている。運営推進会議開催時に消防署員立ち合いで避難場所への避難誘導等を行い消防署員から指導や助言等を得ている。又、地区指定避難場所に避難を実施した際の問題点や反省点を今後活かせるよう検討している。	

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	施設内研修にて啓発や確認を行い、入浴や排泄には羞恥心への配慮を含め、プライバシーに注意を払った声掛けや対応に努めている。	「人格の尊重プライバシーの確保」について動画を視聴した研修を行い意識づけをしている。職員は当たり前の事と認識し、注意を払った声掛けや言葉かけを行い、プライドを損ねる事のないよう努めている。書類は書棚に収納し、プライバシーの保護ならびに個人情報の適正な管理に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	声掛けにてご利用者の思いや希望を聴くようつとめている。認知症で聞けない場合においても生活歴や性格、表情などからくみ取れるように働きかけ、少しでも思いや希望に近い支援ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先とならないように日頃から注意を払いながらご本人のペースに合わせて支援をさせて頂いている。入浴、食事については、時間を調整し、個々に出来るだけ合わせられるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自身でできるかたは、おまかせしている。難しい方は、声掛けをしながら、一緒に服を選ぶなど支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	可能な方は、お盆を並べていただいたり、片づけの際にお盆を運んでもらったりしている。食事中は音楽をかけたり、希望されるテレビ番組をつけたりしながら支援をしている。	配食業者の献立を提供している。副菜は温め盛り付けをしている。ご飯は事業所で炊飯し、米とぎや食器洗い等利用者が行う事もある。利用者の嚥下や咀嚼状態に応じた食事形態で提供している。敬老会や正月等行事食やおやつは職員と一緒にホットケーキやたこ焼き等、食が楽しめる工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分が一度に飲めないかたには数回に分けて時間をあけながらこまめに提供し水分の確保ができるように支援している。飲み物の種類を増やしたり、食事が進まない際は、パンや饅頭等本人が好きな物を提供し少しでも栄養の確保が行えるようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアの実施を全利用者様に実施して頂いている。訪問歯科医と連携し、個別指導を仰ぐ事もあり、口腔内の衛生が保てるよう取り組んでいる。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>基本的に全ご利用者様トイレでの排泄をして頂いている。個別に排尿間隔を把握し、訴えがあった場合には随時誘導している。</p>	<p>利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、基本トイレで座位姿勢での排泄支援をしている。個々に応じた声掛け誘導、衛生用品の適切な使用や利用者個々に応じた介助方法を行っている。水分摂取、食事、適度な運動で出来るだけ薬に頼らない支援をしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>一日の水分量や食事における食物繊維の摂取等気を付け、適度に体操等を行い身体を動かして頂く取り組みは行っているが、自然排便が難しいかたは、かかりつけ医と相談し排便管理を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴の声掛けをさせて頂き、その方の希望に沿えるよう努めている。同性介助を希望される利用者様には、同性介助を行っている。音楽のお好きな利用者様には、CDで音楽を聴きながら、入浴時に入浴剤の使用、入浴後の保湿剤等も行っている。季節によってゆず湯の提供等も行っている。</p>	<p>週2～3回程度を基本としている。無理強いはせず、希望に沿った柔軟な対応をしている。湯温調節、シャンプー、入浴剤、入浴後の保湿剤の塗布等、入浴が楽しめる支援に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	出来る限り朝は、ご自身でおきてこられるまで様子を見て、その人の習慣を大切にできるようにしている。日中傾眠がみられる時等ご本人へ意志確認した後、休息して頂く事もある。レク等で身体を動かしてもらい、夜間の良質な睡眠に繋がるよう取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情を個別ファイリングしてあり、何時でも閲覧できるようになっている。薬の変更があった場合には申し送りノートや日々の引継ぎで確認し利用者の変化に注意をはらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	身体を動かすレクや歌、クイズ、問題集、パズル家事散歩等それぞれ好きな方に提供し、1日の中で生活が楽しくなるように支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出の希望がある際は、家族と協力し、出かけられるよう支援をしている。近場での外出を希望される際には、散歩の支援を行っている。	家族の協力のもとでの外出や散歩、スーパーに買い物、郵便局まで出かけたり、地域の盆踊りや秋祭り、公民館祭り、近所の神社へ初詣等、出来る事からの外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	原則金銭はご家族様が管理されている。		

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様へ確認させていただき、施設の電話でかけられる方もいらっしゃる。個人で携帯電話を所持されている方もいらっしゃる。知人などからかかってきた際には、お繋ぎし、話をして頂く事もある。手紙を書きポストに投函するお手伝いを行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者様と職員が共同で制作した貼り絵を展示し、定期的に、席の配置も検討し利用者が落ち着く空間作りを行っている。ベランダにプランターを設置し、花を植えたり、花瓶に花を生け、季節感ができるようにしている。	季節の花を生けたり、職員と一緒に制作した貼り絵が展示してある。レクリエーションは個々にあった取り組みをしている。椅子は体型に合うようクッション等で調節している。温度管理や換気には十分配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	席の配置は決まっており、隣席の利用者同士の関係性を考えながら席に座っていただいている。ベランダや廊下に椅子を設置し、歩いている途中で休まれながら一人で過ごされている方もおられる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族へ使い慣れた物をもってきていただけるように面会時等に伝えている。居室の物品などは、本人と家族に配置はまかせ、本人が過ごしやすいようにしてもらっている。家具の配置換え等希望があれば職員が対応する事もある。	ベッド、エアコン、カーテンが設置してある。利用開始前、職員が事前に自宅を訪問している。使い慣れた馴染みの物、大切にしている物、野球選手の写真、羽子板、自作のかばん、冷蔵庫等持参し、利用者が家族と相談しながら居心地よく過ごせるよう配置等工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	物品の持ち込みはできるだけ制限をかけず、預からずに見守る事から状況を見極め、それぞれにあった支援を心がけている。例えば、はさみ、裁縫道具等を持たれている方、物品関係の取り出しも自由に行えるような位置に保管しそこから日用品を出される方もいる。		

V アウトカム項目(2階ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝礼時に理念の唱和を行っている。地域の方々をお招きし、行事を開催し、関りを持つ機会がある。笑顔で利用者に接するように心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	地域の盆踊りや公民館祭に参加して、交流が持てるよに取り組んでいる。日所的にという面では行えていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ご利用者のご家族から、以前と比べて認知機能やADLが低下している事に対し、不安を少しでも軽減できるよう日々の状況や介助方法等を説明している。運営推進会議の時に参加していただいている民生委員と包括の職員へ現状を傳達している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	包括職員、民生委員、家族を招き、会議を開催し、身体拘束や虐待の状況、不適切なケア等について意見を頂いている。情報を共有しながらサービス向上に努めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	分からない事は管理者に報告し、管理者から生活科や介護保険課の担当者へサービスについての不明瞭な事について連絡確認を行ってもらい、確認をしている。具体的なサービスの取組みについては伝える事ができていない。		

自己評価	外部評価	項目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内研修で理解、向上に努めている、又、日々利用者の行動や言動などを観察し、職員間で共有する事や、危険であった行動をひやりはつとなをあげて全員に周知。互いに得た情報でそんぽ利用者にあった対応方法を検討し、身体拘束とならないよう実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	施設内で研修を行い、どのような行動や言動が虐待に繋がるか学び、日々の業務で虐待が発生しないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	運営推進会議に包括の職員を招き、制度についての講習をしてもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族からきかれた場合は、職員間で共有認識している事について範囲内でご納得いくように説明し、管理者に繋げている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見や要望があれば、管理者から職員に、職員から管理者に伝達し、意見要望に答えられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	意見や要望があればその都度管理者に伝えている。反映までに時間がかかることもあれば、すぐに対応してくれる事もある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は様々な職員からの情報をもとに日々の職員の様子を気にかけて、声掛けや職員が閲覧するノートに就業についての事等意見や提案を行っている。困っている時は時間を割いて相談に乗り、働きやすいような環境を整えようとしてくれる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修や講習の告知や～を受けてみてはどうかなど職員のキャリアアップになる提案をしてくれ、介護の実際に関しても管理者が率先して他職員と利用者に合う介方法を考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ前は法人全体で研修に参加し、交流する事もあったが、現在はリモート会議を年数回行っているのみである。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前に事前情報を確認し、どのような利用者かイメージをし職員間で共有している。入所時に利用者や家族と話をし、ニーズにあった援助を職員間で検討し支援している。		

自己評価	外部評価	項目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>サービス開始時に、家族や利用者は不安を感じている事もある為、少しでも軽減できるよう話をしっかりとるようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>要望を確認し、事業所で対応できる外部のサービス（訪問マッサージ、訪問歯科）の案内をさせていただき、利用している。生活していくなかで、リハビリの要望等があった場合は支援をしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>コミュニケーションをとりながら、一人一人何ができるかを職員間で考え、家事手伝いをさせていただいたりしている。例えば掃き掃除、台拭き、お盆ふき、食器洗い等、一緒に職員と行っている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時に落ち着いた環境で関りがもてるよう自室で面会をしていただく事が多い。必要物品や病院受診など家族が対応可能な限りでお願いをし、できるだけ本人と関われる時間が多くもてるよう支援している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>電話連絡でのやりとり（施設電話、個人携帯）や、お手紙をかかれる方がおられる。なじみの場所については家族といかれるかたが多い。</p>		

自己評価	外部評価	項目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一つのテーブルに多人数が座られる席配置となっており、席もきめていない。その中で隣席の方同士がコミュニケーションをとられる事が多く、レクリエーションの際に関りを持たれたりする事が多い。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	個人の写真アルバムを作成し、退所後にお渡ししている。必要な情報をまとめさせて頂き渡したり、本人がご存命の場合は、退所され1~2週間後に電話連絡を管理者にしてもらい、状況を聞く事もある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時のアセスメントシートを職員で共有し、本人とコミュニケーションのなかで希望をうかがっている。困難な場合は家族や職員間で相談しより良い支援ができるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様やサマリーの情報からこれまでの生活背景や利用の経緯等の情報を収集している。入所後に本人とのコミュニケーションにおいても把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員一人一人が関わる事で得る情報を話し合い、すり合わせを行っている。		

自己評価	外部評価	項目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族、利用者の要望を確認しながら、職員が関わる中でどのように感じ、考えているかの共有を行っている。その中で、できそうな事や利用者にあっている意見を参考にケアプランに使える情報を計画作成担当者に提供している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護の気づき等は個別記録と共に特に注意すべきことや変更等は共有ノートや、業務日誌で共有し、その情報からケアについて修正し再度実践している。その人にあつたケアが実践でできるように日々検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	管理者や職員間で話し合い、個々のニーズに合ったサービスの提供をしている。ご家族が希望のサービスがあれば、訪問マッサージや歯科、通所リハの支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	併設する保育園の園児と交流する事で季節の行事を体験したり、ボランティアにきてもらい、関りを持って頂く事で少しでも楽しんでいただけるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	状態が悪い時は適宜主治医と連携し受診を行っている。主治医や家族の意見を踏まえ利用者にあつた病院を選定し、医療を受け入れるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職員や管理者から利用者の状態変化を看護師に報告し、看護師の判断が難しい時には主治医に報告や他の医療機関に受診し適切な医療が提供できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を通して、連携医療機関に紹介状をかいてもらい、スムーズに入院ができています。主治医が休診の場合は、他医療機関に受診し適宜入院できるよう支援している。入院後は医療機関との連携を図り、退院に向けての調整を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に、重症化や終末期になった場合の時、どのように対応するか聴き取りを行い書面に記入をしてもらっている。日がたつにつれ考えも変わる為、適宜意思編子ができるよう対応している。管理者看護師が、家族と話し合い、方針を決めて職員に共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内研修や緊急対応マニュアルにより理解に努めている。緊急時の対応が報告書に記載される為職員で情報共有し、流れを再確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に避難訓練を行い、避難方法や対応を実践できるようにしている。年1回消防署に立ち会ってもらい合同避難訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	施設内研修で意識付けに努めて、職員一人ひとりが意識しながら、声掛けに注意し、人生の先輩に対して敬意がはらえるようつとめている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	声掛けにてご利用者の思いや希望を聴くように努めている。認知症で聞けなくても生活歴うあ性格、表情などからくみとれるように働きかけ、少しでも思いや希望に近い支援が提供できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個人のペースを尊重しているが、外出の支援等個別対応があまりできていない時がある。集団生活の中では希望にそったペースでの支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝食前、入浴後等に髪をとかししたり、顔ふきタオルの提供等整容の支援に努めている。また、訪問理容サービスを利用したり、衣替えのシーズンや不良となった衣類等は家族と協力し支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	日々の観察や本人からの意見を聞き、パンやご飯の変更をしている。食欲がない時には、本人の好きなもの(まんじゅうや、ゼリー、二十焼き等)を提供し支援に努めている。また、副食のもりつけ、食器の後かたづけなどを手伝ってもらっている。おやつレクの際にも調理等をしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	体調に合わせて1日の食事量や水分量 を計算し、それを目標に摂取できるよ うにしている。食事量が少ない利用者は医 師に相談し、栄養補助食品をもらい提供 している。水分に関しても複数の種類の 飲料を準備し、好みに合わせて支援をし ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを実施している。利用者 に合わせて歯間ブラシ、ハミングットを 使用をして口腔ケアを実施している。週1 回の訪問歯科の往診もあり、希望者は診 察をしてもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	尿意・便意が訴えられる利用者に対し てはご自身のペースでトイレに行っ てもらっている。訴えが難しい利用者は本人 の間隔に合わせて定期的にトイレに誘導 し、下剤の内服時には誘導時間を少し早 め、トイレでスムーズに排便が促せるよ う努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分をしっかり飲んで頂き、乳製品を提 供する。ADLに合わせて軽い運動をし ている。それでも便秘が続く場合は医師に 相談しその方に合った便秘薬を処方し てもらい、内服してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合 わせて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	ご自身のタイミングでできる限り入浴し てもらえるよう声掛けをしている。時間 の調整もできるだけ希望に沿えるよう調 整している。		

自己評価	外部評価	項目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活環境を整え、ご自身のペースに合わせて居室で休んでもらったり、ソファで休んでもらったりしている。夜間帯になかなか寝付けない場合はココアや紅茶を提供し、リラックスしてもらえよう取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	定期処方職員共有し把握に努めている。急な処方に対して、把握しきれていない職員もいる為、申し送り時に口頭と送りノートに記載し、漏れが少なくなるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食事の準備や清掃、洗濯たたみ等個々の状態に合わせて支援をしている。また、個々の状態に合わせて、座ってできるレクや立ってできるレク等提供をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	以前のようにドライブ等の外出支援がなかなか行えていない為、家族に協力してもらい、外出してもらっている。敷地内のお花見や近所への散歩程度の外出はできるように努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	原則お金所持はお断りしているが、本人が落ち着かれない、不安になるという方には家族に了承を得て、少額を持っていただく事もある。		

自己評価	外部評価	項目(3階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、電話の支援を行っている。形態をお持ちの方も増えており、やりとりは自由にしてもらっている。手紙についても書かれた際は、一緒に郵便局に持って行く支援を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者と職員が共同で作成した貼りえの掲示、一緒に花をいけ飾ったりしている。季節行事の飾りつけも行い季節を感じてもらえるようにつとめている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビ前にソファを配置したり、ベランダで日光浴や気の合う利用者同士がテーブルと一緒に座れるように調整を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所前に慣れ親しんだ衣類や家具、テレビ等を持参してもらっている。また、家族の写真や保育園の園児、施設からの贈り物なども飾ってもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ひとりひとりできる事が違うため、そかたに合わせて、洗濯たたみや清掃、等生活リハビリを行っている。生活環境を整えてご自身で安心して生活できるように支援している。		

V アウトカム項目(3階ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム光明牛田新町

作成日 令和6年12月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に決まったメンバーしか参加できていない。	家族や地域のかた等幅広く会議に参加してもらおう。	地域の方々に声掛けを行う、包括や民生委員等から広報してもらおう。	2年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。